

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年8月28日 (2008.8.28)

【公開番号】特開2005-162859(P2005-162859A)

【公開日】平成17年6月23日 (2005.6.23)

【年通号数】公開・登録公報2005-024

【出願番号】特願2003-402810(P2003-402810)

【国際特許分類】

C 0 8 L 83/07 (2006.01)

C 0 8 L 83/05 (2006.01)

G 0 2 B 1/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 83/07

C 0 8 L 83/05

G 0 2 B 1/04

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月15日 (2008.7.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3】

(B)成分が式： $(R^7R^8_2SiO)_gSiR^8_{(4-g)}$ (4)

(式中、 R^7 は炭素原子数 2 ～ 10 のアルケニル基であり、 R^8 はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基（ただしアルケニル基を除く）であり、 R^8 の少なくとも 10 モル % はフェニル基であり、 g は 2 または 3 である。）で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである請求項 1 または請求項 2 記載の付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

(B)成分が式： $(R^7R^8_2SiO)_gSiR^8_{(4-g)}$ (4)

(式中、 R^7 は炭素原子数 2 ～ 10 のアルケニル基であり、 R^8 はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基（ただしアルケニル基を除く）であり、 R^8 の少なくとも 10 モル % はフェニル基であり、 g は 2 または 3 である。）で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである請求項 4 または請求項 5 記載の光学部材。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

本発明は、[1] (A) 平均組成式： $R^1_aR^2_bSiO_{(4-a-b)/2}$ (1)

(式中、 R^1 は炭素原子数2～10のアルケニル基、 R^2 は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^2 の少なくとも50モル%はフェニル基であり、 a は0.09～0.16であり、 b は1.00～1.20である。)で示され、ゲル透過クロマトグラフィーでのポリスチレン換算重量平均分子量が3,000以上であり、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノポリシロキサン樹脂100重量部、

(B) 平均組成式： $R^3_c R^4_d SiO_{(4-c-d)/2}$ (2)

(式中、 R^3 は炭素原子数2～10のアルケニル基、 R^4 は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^4 の少なくとも10モル%はフェニル基であり、 c は0.60～0.80、 d は1.50～2.10である。)で示され、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサン10～50重量部、

(C) 平均組成式： $H_e R^5_f SiO_{(4-e-f)/2}$ (3)

(式中、 R^5 は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^5 の少なくとも20モル%はフェニル基であり、 e は0.35～0.65、 f は0.90～1.70である。)で示されるオルガノハイドロジェンオリゴシロキサンもしくはオルガノハイドロジェンポリシロキサン20～100重量部、および

(D) 触媒量の付加反応硬化触媒からなり、硬化物のASTM D2240-86に規定されるタイプDデユロメータによる硬さが25で60～100であり、150で40～100である付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

[2] 平均組成式(1)中の a が0.10～0.15であり、 b が1.00～1.15であり、平均組成式(2)中の c が0.60～0.80であり、 d が1.50～2.00であり、平均組成式(3)中の e が0.35～0.65であり、 f が1.30～1.70である [1]記載の付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

[3] (B)成分が式： $(R^7 R^8_2 SiO)_g SiR^8_{(4-g)}$ (4)

(式中、 R^7 は炭素原子数2～10のアルケニル基であり、 R^8 はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^8 の少なくとも10モル%はフェニル基であり、 g は2または3である。)で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである [1]または [2]記載の付加反応硬化型オルガノポリシロキサン樹脂組成物。

[4] (A) 平均組成式： $R^1_a R^2_b SiO_{(4-a-b)/2}$ (1)

(式中、 R^1 は炭素原子数2～10のアルケニル基、 R^2 は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^2 の少なくとも50モル%はフェニル基であり、 a は0.09～0.16であり、 b は1.00～1.20である。)で示され、ゲル透過クロマトグラフィーでのポリスチレン換算重量平均分子量が3,000以上であり、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノポリシロキサン樹脂100重量部、

(B) 平均組成式： $R^3_c R^4_d SiO_{(4-c-d)/2}$ (2)

(式中、 R^3 は炭素原子数2～10のアルケニル基、 R^4 は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^4 の少なくとも10モル%はフェニル基であり、 c は0.60～0.80、 d は1.50～2.10である。)で示され、少なくともアルケニル基とフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサン10～50重量部、

(C) 平均組成式： $H_e R^5_f SiO_{(4-e-f)/2}$ (3)

(式中、 R^5 は非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^5 の少なくとも20モル%はフェニル基であり、 e は0.35～0.65、 f は0.90～1.70である。)で示されるオルガノハイドロジェンオリゴシロキサンもしくはオルガノハイドロジェンポリシロキサン20～100重量部の付加反応硬化物であり、硬化物のASTM D2240-86に規定されるタイプDデユロメータによる硬さが25で60～100であり、150で40～100である光学部材。

[5] 平均組成式(1)中の a が0.10～0.15であり、 b が1.00～1.15であり、平均組成式(2)中の c が0.60～0.80であり、 d が1.50～2.00であり、平均組成式(3)中の e が0.35～0.65であり、 f が1.30～1.70である [4]記載の光学部材、

[6] (B)成分が式： $(R^7 R^8_2 SiO)_g SiR^8_{(4-g)}$ (4)

(式中、 R^7 は炭素原子数2～10のアルケニル基であり、 R^8 はそれぞれ独立に非置換もしくは置換一価炭化水素基(ただしアルケニル基を除く)であり、 R^8 の少なくとも10モル%はフェニル基であり、 g は2または3である。)で示される、少なくともアルケニルとフェニル基を含有するオルガノオリゴシロキサンである[4]または[5]記載の光学部材に関する。